

兵庫県南部大地震 記念の日 追悼礼拝次第

日時 2025年1月17日(金)午後6時から
会場 日本基督教団 神戸教会
オンライン・ライブ配信(YouTube)
主催 日本基督教団 兵庫教区



礼拝ライブ配信
用QRコード

阪神・淡路大震災から30年の時を迎えます。

これまでわたしたちが被災者・ご遺族の方々と共にあろうと祈り願い、行なえた、あるいは行なえなかった数々のことを思い起こします。また、能登半島の地震や津波・豪雨の災害に至るまで、この間その都度問われていることを、次の世代に引き継いでいくのも、わたしたちが今後向き合い続けなければならないことと考えます。

その思いをもって、今回もまた、記念の時を迎えたいと願います。

- ※ 説教者^{にしざわ た き え}西澤他喜衛／1949年生れ。同志社大学神学研究科修了後、他教区での担任教師を経て、1979年兵庫教区甲東教会（西宮市）へ、担任教師をへて主任担任教師。2021年3月に辞任。1995年の大地震当日の早朝（6時頃）から、甲東教会で地域被災住民の「臨時避難所」を設置し、甲東教会員の強い支援や地域有志の協力で5月末まで、最後の一人の行き先が見つかり、避難所を出て行かれるのを確認して終了。震災当初には家屋倒壊で亡くられた3名をお預かりし、礼拝堂にて安置。震災の年の5月兵庫教区定期総会で教区副議長、後に議長。震災に関連して、兵庫教区震災対策特設委員会にて長く責任者をし、又被災者生活支援・長田センターの初代責任者。現在は須磨教会と曾根教会。教団では、伝道委員、教師検定委員、教師委員、常議員などを歴任。

司式 新堀真之 (甲東教会)
奏楽 瀬尾千絵 (神戸教会)

前 奏	シャコンヌ ヘ短調 (J. バッヘルベル)	奏楽者
招 き	申命記8章3節b(p. 4)	司式者
告 白	被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白 (p. 5)	一 同
黙 祷		一 同
う た	「たとえ塔は崩れ」(『讃美歌21』 400、p. 6)	一 同
祈 り		司式者
う た	「善き力にわれかこまれて」 (『讃美歌21』 469;1、2、3節、p. 8)	一 同
聖 書	ヨハネによる福音書 1章14節 (p. 10)	司式者
説 教	『出来事が問う、その問いを石畳として 一地域の再生なくて、教会の復興はありえない』	西澤他喜衛
う た	「善き力にわれかこまれて」 (『讃美歌21』 469;4、5節、p. 8)	一 同
献 金		一 同
祈 り	1月17日 人と自然の共存を祈る(p. 11)	一 同
終 祷		説教者
後 奏	主イエスキリストよ、われ汝に呼ばれる BWV639 (J.S. バッハ)	奏楽者
報 告		

※ 礼拝献金は、教区被災者生活支援・長田センターを通じて、東日本大地震・津波・原発事故被災者、能登半島大地震・津波・豪雨災害被災者、「アハリー・アラブ病院を支える会」によるパレスチナ・ガザの人々の支援等に用いさせていただきます。オンラインの方は以下の口座宛に「追悼礼拝献金」と明記の上お振り込みください(1月末日締切)。

郵便振替口座 01120-7-25121 「日本基督教団兵庫教区事務所」

招 き

ひと い
人はパンだけで生きるのではなく、

ひと しゅ くち で
人は主の口から出る

ことば い
すべての言葉によって生きるということを、

し
あなたに知らせるためであった。

(申命記8章3節b『聖書協会共同訳』)

告 白 被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白

わたしたちは、地震と被災に関わる経験を通して示された、試練と恵みの
神の働きを信じる。

わたしたちは、被災が一律でなく極めて多様で、それぞれに固有の生活
体験であることを知る。しかし、その個々の生活に働かれる神の臨在を認識
した。そして固定化した福音理解、感性と想像力に欠けた信仰生活が厳し
く問われたと信じる。

わたしたちは、非常時の中で教会の地域社会への関わりと参与、その
日常性のあり方を問われた。被災の現実から教えられたのは、隣人への
関心、関係の豊かさを生きることであると信じる。

わたしたちは、大地震という未曾有の出来事を経験した。おびただしい死
を前に圧倒されながら、悲しむよりほかない現実と向かい合うことの大切さを
知った。同時に、イエス・キリストにおいて歴史に啓示された神は、被災のただ
中にも臨在されていることを信じる。

わたしたちは、現実の苦難の中にある生命の営みと、その出会いの中にこ
そ神は居られることを信じる。その信仰によって未知のものを踏み分けつつ
言葉を紡ぎだしていくことが福音宣教と信じる。

わたしたちが被災の現実の中で、『地域の再生なくて、教会の復興はあ
りえない』として歩んできたことが、神の前に立つわたしたちの信仰の応答であ
ると告白する。

アーメン

うた 「たとえ塔は崩れ」(『讃美歌21』400)

400

宣教への派遣・伝道
たとえ塔は崩れ

[Ⅱ 45]

Kirken den er gammelt Hus
詞：Nicolai F. S. Grundtvig, 1783—1872

KIRKEN (LINDEMAN)
曲：Ludvig M. Lindeman, 1812—1887

1 たとえ 塔はくずれるがれきとなるとも、
2 ひとの手がつくるたてものにすまはず、
3 かみのいえとめわれこの場にもえらばれ、
4 かねのねとにもこの場にあつま

主のきょうかいかからかねはなのおひびく。
➤ ぜんのかのうかみはてんにおられも、
➤ 生きたしとけ主にもちいられる。
➤ みことばをうけてつくりかえられる。

いこいをめてなやむのすべり、
➤ われらをあしでせいにれをくとき、
➤ ふたり、さんにはがともにつどおうとき、
➤ かみのたみはみなキリストにおいて



1 たとえ^{とうぐず}塔は崩れ 瓦礫^{がれき}となるとも、
 主^{しゅ}の教会^{きょうかい}から 鐘^{かね}はなお響く。
 懇^{いこ}いを求めて 悩^{なや}む者^{もの}すべて
 ここへ招^{まね}かれる。

2 人^{ひと}の手^てが造^{つく}る 建物^{たてもの}に住^すまず、
 全能^{ぜんのう}の神^{かみ}は 天^{てん}におられても、
 われら^{われら}を愛^{あい}して 聖霊^{せいれい}をおくり、
 共に^{とも}に住^すまわれる。

3 神^{かみ}の家^{いえ}のため われら^{われら}も選^{えら}ばれ、
 生^いきた石^{いし}として 主^{しゅ}に用^{もち}いられる。
 二^{ふたり}人^{じん}、三^{さん}人^{にん}が 共に^{とも}集^あうとき、
 主^{しゅ}イエスもおられる。

4 鐘^{かね}の音^{おと}と共に この場^ばに集^あまり、
 みことば^{みことば}を受け^うけて 造^{つく}りかえられる。
 神^{かみ}の民^{たみ}はみな キリスト^{きりすと}において
 一^{ひと}つとなる、アーメン。

マタ16:18-20 エフェ2:11-22 Iペト2:4-9
 IIコリ5:1 Iコリ3:16-17 王上8:27-28

うた 「善き力にわれかこまれて」 (『讃美歌21』 469)

469

信頼

[III 37調, III 38調]

善き力にわれかこまれ

Von guten Mächten treu und still umgeben
詞 : Dietrich Bonhoeffer, 1906—1945

VON GUTEN MÄCHTEN
曲 : Otto Abel, 1905—1977

1 よ き ち か ら に わ れ か こ ま れ ま れ
2 す ぎ たい ひ の な や し か み お も く
3 た と い 主 か の ら し だ さ も る
4 か が や か せ よ の と ら も れ し び
5 よ き ち か せ に ま も れ し つ つ

ま も り な ぐ さ め ら れ て、
な お、 り の し か は さ る も、
さ わ か れ た ら づ き の や に み が て、
わ け ず の べ き と と な か ま も、
き だ べ の き を か ま に、
わ き た べ の き を か ま と。

世 の な や み と も に わ か ち、
さ わ ぎ や つか ところ こし ろ し ず め、
お そ れ はず か こん 手 在 ぬ、
の ぞ れ を 主 の い にも ゆ だ ね、
の そ み を も の い か へ は



- 1 善き力に われかこまれ、
 守りなぐさめられて、
 世の悩み 共にわかし、
 新しい日を望もう。

- 2 過ぎた日々の 悩み重く
 なお、のしかかるときも、
 さわぎ立つ 心しずめ、
 みむねにしたがいゆく。

- 3 たとい主から 差し出される
 杯は苦くても、
 恐れず、感謝をこめて、
 愛する手から受けよう。

- 4 輝かせよ、主のとし火、
 われらの闇の中に。
 望みを主の手にゆだね、
 来たるべき朝を待とう。

- 5 善き力に 守られつつ、
 来たるべき時を待とう。
 夜も朝も いつも神は
 われらと共にいます。

マタ20:22-23 出13:21-22 詩31
 イザ12:2 Iベト4:16-17

聖書 ヨハネによる福音書 1章14節

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。

えいこう み
わたしたちはその栄光を見た。

それは父の独り子としての栄光であって、

めぐ　しんり　み
恵みと真理とに満ちていた。

(『新共同訳聖書』)

祈り 1月17日 人と自然の共存を祈る

かみ わたし しぜん なか い い かんしゃ
神さま、私たちが自然の中で生き、生かされていることを感謝します。

じぶん おお しぜん なか いちぶ しぜん なか い
でも、自分たちも大きな自然の中の一部であって、その自然の中で生かさ
れているということをすぐ^{わす}に忘れてしまいます。いつも人間^{にんげん}だけが、人間^{にんげん}の知恵^{ちえ}や
ちから^{ちから}によって生きていて、その上^{うえ}、自分たちが自然^{しぜん}を支配^{しはい}しているかのように
かんちが^{かんちが}
勘違い^{かんちが}してしまいます。

おおじしん じぶん かんが いじょう さまざま ささ はげ
あの大地震^{おおじしん}をとおして、自分^{じぶん}たちが考^{かんが}えている以上^{いじょう}に様々^{さまざま}な支^{ささ}えや励^{はげ}まし
し え いま わたし しぜん たい ささ なぐさ とも
があったことを知^しり得^えた今^{いま}、私^{わたし}たちは自然^{しぜん}に対^{たい}しても、支^{ささ}えられ、慰^{なぐさ}められ、共^{とも}に
い なかま おほ おも
生^いきている仲^な間^{かま}であることを覚^{おほ}えてい^{おも}きたいと思^{おも}います。

けつ にんげん しぜん しはい おほ
決^{けつ}して人^{にんげん}間^{げん}が自^し然^{ぜん}を支^し配^{はい}しているものではないとい^{おほ}うことを覚^{おほ}えるために。

アーメン

